

ふるさと納税・茨城県の状態

平成28年度受入れ金額と件数



茨城県内市町村（寄付金額1億円以上）

平成28年度

自治体名	金額万円	件数
境町	17億2115	79,347
日立市	13億4718	18,046
守谷市	6億1603	15,821
古河市	5億0230	23,957
土浦市	3億7587	28,082
石岡市	3億7396	26,527
龍ヶ崎市	2億4723	5,312
水戸市	1億8606	5,255
小美玉市	1億8606	16,249
大洗町	1億7231	4,732
行方市	1億6189	12,296
常陸大宮市	1億5502	14,909
稲敷市	1億5233	10,524
板東市	1億3494	10,939
筑西市	1億3067	7,254
北茨城市	1億0862	662
阿見町	72	13

茨城県内の市町村ふるさと納税は、全国的傾向と同じく全般的に寄付金額が増加しています。上位の自治体は、常連の自治体が多く、返礼品やテーマの設定で引き続いて、ふるさと納税の仕組みを上手に利用しているものと思われます。

守谷市は、昨年と比較して大幅な増加で、平成28年度は3位にまで躍進しました。その原因は、返礼品の定番である肉類、市内で加工されているソーセージなどの加工品、市内に工場のあるアサヒビールや日本酒など、地域の資源を見直して、特産品の定義を柔軟に考えて、返礼品のラインナップを大幅に増やしたことが奏功したものと思われます。

また、昨年度（平成27年度）災害支援という「テーマ」により、1億2千万円を超える寄付があった常総市は、今年は大幅に寄付金を減少させました。人々の関心を引き付ける新たな「テーマ」の設定が課題になります。

ふるさと納税・阿見町の状況

—平成28年度受入れ金額と件数—



茨城県内自治体ランキング2番目の日立市

阿見町の各年度のふるさと納税の推移

年度	金額（千円）	受入件数
平成20年	15,315	1,099
平成21年	3,997	163
平成22年	2,584	37
平成23年	431	14
平成24年	698	10
平成25年	278	11
平成26年	320	3
平成27年	631	14
平成28年	728	13

平成28年度の阿見町のふるさと納税は、寄付件数は13件、金額は72万8千円という結果でした。県内44市町での位置は、金額で最下位の44位、件数で43位ということになりました。

平成20年度から平成22年度までの3年間は、予科練平和記念館の整備が行われ、テーマを持った寄付募集に関係者が応えたという結果です。しかし、その後の推移をみると何ら手を打つことなく「無為無策」で、ふるさと納税制度の特徴を生かして特産物の開発や地場産業の振興に結び付けることもなく、かと言って「魅力あるテーマ」を示すこともなかった、ということを示していると思います。

その間、何度となく機会をとらえてふるさと納税に取り組むことを提言してきましたが、執行部は「制度のマイナス面」を強調するばかりでした。

http://blogs.yahoo.co.jp/umino_takashi/57344103.html

http://blogs.yahoo.co.jp/umino_takashi/56823217.html

http://blogs.yahoo.co.jp/umino_takashi/57321550.html

しかも、その間、町民が他の自治体への寄付を行うことで、本来阿見町に納税されるべき金額が、他の市町村に移転するということが拡大してきました。平成27年度は、阿見町に寄付された金額が63万1千円なのに対して、町民が他市町村に寄付した金額は2538万3千円となっています。平成28年度は、さらに拡大していることが予想されます。

阿見町では、ふるさと納税については公表していません。議員が、予算や決算、委員会、一般質問で質問して、ようやく公表するという一方で、町民が内容の詳細を知ることは出来ません。議会でも、「ふるさと納税に取り組む必要がない」という意見の議員もいます。のけ反り驚くばかりですが・・・。

阿見町 ふるさと納税の収支

—受入れ金額と件数の推移—



多彩な阿見町の特産物

阿見町 ふるさと納税の収支

年度	件数	阿見町への 寄付金額 (円)	件数	他自治体への 寄付金額 (円)
25	11	277,000		1,411,000
26	3	320,000		5,178,000
27	14	631,000		25,383,000
28	13	728,000		38,002,000

ふるさと納税について、今回で4本目の記事を書きます。28年の阿見町ふるさと納税は、寄付件数は13件、金額は72万8千円という結果でした。茨城県を含めた県内45自治体での位置は、金額で最下位の45位、件数で44位ということになりました。

しかも、その間、町民が他の自治体への寄付を行うことで、本来阿見町に納税されるべき金額が、他の都道府県・区市町村に移転するということが年々拡大してきました。

上記の表が、平成25年からの推移です。平成27年は、阿見町に寄付された金額が63万1千円なのに対して、阿見町民が他市町村に寄付した金額は2538万3千円となっていました。この傾向から見れば、普通の分析能力を持つ者ならば、平成28年が、さらに拡大するだろうと予想して、その対策をたてようとするはずです。

しかし、推移をみると何ら手を打つことなく「無為無策」で、ふるさと納税制度の特徴を生かして特産物の開発や地場産業の振興に結び付けることもなく、かといって「魅力あるテーマ」を示すこともなかった、ということを示していると思います。その結果が、平成28年では、阿見町に寄付された金額が72万8千円なのに対して、阿見町民が他市町村に寄付した金額は3800万2千円となってしまいました。

せめて、収支を合わせろと言いたいのです。現在でも、阿見町には魅力のある特産品はあります。大玉スイカ、干し芋、ヤーコン、メロン、レンコン、タケノコ、阿見産コシヒカリ、南高梅、ブルーベリー、その他の多くの農産物、加工品があります。工芸品では草人形があり、最近では、阿見産米を使用したせんべい「あみの将軍」や「ヤーコンコーヒー」などもあるようです。

(※「あみの将軍」は当初、「あみ将軍」という商品名にする予定だったようですが、千葉県木更津市が、本物の漁網で作られたボディタオル「御身あらい」を2つ組み合わせた「あみ将軍」を開発しており、「あみの将軍」に変更されたようです。商品名の権利の保護をしっかりとやることも課題ですね。)

加えて、町内に進出している雪印メグミルクの阿見工場生産の「チーズ」、日本を代表する「漢方薬」のツムラ、キンレイの「鍋やうどん」、マルカンの「酢」などもあります。「自衛隊グッズ」というのもマニアには受けるかもしれません。

また、屋外スポーツでは、最近、阿見町に開設した「乗馬クラブ」の乗馬券も良いかなと思います。レンコン掘り体験、タケノコ掘り体験というのも人気になると思います。ざっと思いつくままに上げましたが、これだけのラインアップでも相当魅力あるものだと思います。

要するに真剣に早く取り組むことが必要だということです。周回遅れもいいところですから・・・。

ふるさと納税・全国の状況

—平成28年度受入れ金額と件数—



茨城県内自治体トップの境町

平成28年度（2016年度）のふるさと納税の受入れ金額の統計がまとまり総務省自治税務局市町村税課から平成29年7月4日発表されました。

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_zeisei/czaisei/czaisei_seido/furusato/topics/20170704.html

平成28年度は、自治体への寄付総額が過去最高の2844億887万5千円になったということです。昨年度の1.7倍で、返礼品の充実やインターネットでの簡易な手続きなどが定着したことが追い風になったようです。

平成28年度 全国ランキング

団体名	受入額 (万円)	受入件数
宮崎県都城市	73億3300	528,242
長野県伊那市	72億0500	59,084
静岡県焼津市	51億2100	231,244
宮崎県都農町	50億0900	257,268
佐賀県上峰町	45億7300	272,265
熊本県熊本市	36億8600	69,473
山形県米沢市	35億3100	35,574
大阪府泉佐野市	34億8400	216,651
山形県天童市	33億5800	201,925
北海道根室市	33億0700	165,797